

「第2回アドバイザー会議」における質問内容及び回答内容

調書番号:15 事業名:新産業技術等職業高校教員研修費

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
五味アドバイザー	<p>説明にあった3年以内の離職率(4割超)は県内の数値か。</p> <p>技術系の教諭が242名いるが年齢層はどうなっているか。</p> <p>新しい技術を勉強していくのに、年齢層が高いというのはどうなのか。</p> <p>生徒の方が先に覚えてしまうのではないか。</p>	課長・手島 俊樹	<p>その通りである。山梨労働局のデータで、県内の企業に高卒で就職したものの離職率である。</p> <p>技術系に限らず教員全体的にそうだが、一番多いのが50代である。次が40代、30代、20代という状況である。加えて再任用も始まっているので新規採用数が若干影響を受けるところがあり逆三角形的な分布になっている。</p> <p>古い知識では通用しない。年齢層が高い教員にこそ、こういった研修を踏まえて新しい技術技能の知識を得させていくことが必要と考えている。</p> <p>スマートフォンやソーシャルネットワークサービスなどはそういうこともあるだろうが、実際に企業が必要とする技能というのは、普通に生活していても身に付くものではない。たとえば旋盤の技能などは普段の生活で身につけられるものではない。</p>

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
諸平アドバイザー	<p>新産業技術等職業高校教員研修と新産業指導者養成研修では、実習助手は参加できないのか。</p> <p>実習助手の年齢層はどうか。</p> <p>民間企業が行う研修とはどのようなものか。顔つなぎということも考えて研修先を決めているのか。</p> <p>新産業指導者養成研修は大勢参加しているが、魅力的な講座ということか。</p>	課長・手島 俊樹	<p>新産業技術等職業高校教員研修と新産業指導者養成研修についても各校へ募集をかけている。助手であっても希望があれば内容を精査し、良ければ受講は可能である。</p> <p>教諭と同様であるが、期間採用については年齢の若い者が多くいる。</p> <p>例えば、3Dプリンターの技術講習や産業ロボットメーカーが毎年夏休みに実施する講習などである。</p> <p>魅力的というか、各科で、今何を課題として取り上げて研修をしたらいいかということを考えて計画しているので、研修のテーマが教員のニーズに即しているということである。</p>
小口アドバイザー	<p>企業研修について、10年間の実績で研修先が20企業ぐらいということで、同じ企業に何回も行っていると思うが、研修先が広げられない理由はなにか。</p> <p>教員が企業を知り、生徒に合う企業を紹介するということは非常に重要なことだと思うが、研修に参加する教員が就職指導も行うという理解でよいか。</p>	課長・手島 俊樹	<p>研修先の開拓が難しいということはあると思うが、研修を充実させるために企業側にももう少し積極的に働きかけを行っていく必要があると感じている。</p> <p>専門学科を抱えている学校については、進路指導主任とは別に就職担当教員を決めており、職業科の産業教育担当者が就職担当教員となっていることが多い。</p>

<p>小口アドバイザー</p>	<p>産業労働部あたりは企業とのつながりも強く、そういったところと連携する必要があるのではないか。</p> <p>新産業指導者養成研修について、参加者数が専門分野によってずいぶん差がある。商業や工業は教員数が多い割に参加者が少ないがどうということか。</p> <p>工業科の教員がもう少し参加しやすくなるよう配慮してほしい。 アンケートの満足度が成果指標になっているが、授業の改善に役立たないという回答があるのが非常に不思議に思える。これはどうということか。</p> <p>「研修をどうやって役立てていくか」という反省につながるような設問を工夫すべきである。</p>	<p>課長・手島 俊樹</p>	<p>今年度、中小企業団体中央会から働き掛けがあり、県内の教員との関係を深めたいということで山梨労働局の仲介で中小企業団体中央会と高校の就職担当者との協議会をもったところである。今後こうした機会を何回かもちながら教員の研修先の協力要請や働き掛けをしていければと考えている。</p> <p>工業科については夏休み以外の時期に行っており、時期の関係があつて少なくなっている。農業科は夏休み中なので参加しやすと考えている。</p> <p>工業科の関係の講習会を実際にその授業を担当していない別の専門分野の教員が受講することもある。そのような場合にそういった回答がなされるのではないかと分析している。</p> <p>授業改善につながるアンケート項目になるよう改善を図っていきたい。</p>
<p>五味アドバイザー</p>	<p>授業を担当していない教員が受講することがあるということだが、必要な人が必要な研修を受けるようにするべきではないか。</p>	<p>課長・手島 俊樹</p>	<p>専門分野間で相互に関連する部分があり、積極的にほかの分野の授業を参観するよう推奨している。そうすることで自身の専門分野に生かせることがあると考えている。</p>

<p>諸平アドバイザー</p>	<p>新産業技術等職業高校教員研修は無料で受けられるのか。</p> <p>各種学校にも行っているが、この場合は教え方を教わりに行くということか。</p> <p>本人の希望で受講先を決めるのか。</p>	<p>課長・手島 俊樹</p>	<p>無料ではない。そのため事業として参加費を予算化している。</p> <p>比較的多いのが商業科と家庭科である。商業科については簿記検定など自身の技能向上という部分もある。もちろん指導法を学ぶための講座もある。</p> <p>本人の希望をまず聞き、それが適切な講習になっているか当方で判断し、適当と認めたものについて受講を認めている。</p>
<p>小口アドバイザー</p>	<p>教育は3年くらいの中期的なプランを持って進めていくべきと思うが、分野別に何年かけてこういうものを習得させたいとかこういうことをレベルアップさせたいというような中期的な計画や目標はあるのか。</p> <p>忙しいので毎年は無理でも、3年に一度は研修を受けられるような体制を作っていくような工夫をしてほしい。</p>	<p>課長・手島 俊樹</p>	<p>特に新産業技術等職業高校教員研修と新産業指導者養成研修については、各教科の教員による教科部会が指導主事の指導助言を受けながら生徒や教員の状況を把握し、課題は何か目標をどうすべきか決めてやっている。明確な中期的な目標はないが、3年くらい先を見据えて計画を立てていると聞いている。</p> <p>分かりました。</p>